

令和8年度 「数学Ⅰ（１）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
改訂版 新数学Ⅰ(東京書籍)		新数学Ⅰ 学習書		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
8時間（水2、木2）	2時間	2回	前期3回 後期3回	

○「数学Ⅰ（１）」の学習目標

「数と式」の領域において、計算力を伸ばし、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成します。

○ 学習内容の概要

数の基礎的な計算から始め、数を実数の範囲まで広げて、数や式を多角的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりします。

○ 数学科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

まず、教科書をよく読んでください。すぐにレポートに取り掛かるのではなく、教科書の例題や学習書を参考にして問を解いてみましょう。ある程度解き方が分かったと感じられたら、レポートに取り組んでください。レポートの問題を解く際は、途中式を残しておきましょう。間違えた時に、自分がどこでミスをしやすいのかを知る手掛かりになりますし、後々の復習にも役立ちます。スクーリングでは、疑問点を積極的に解決してください。レポートの質問欄も有効に活用しましょう。

◎ 学習計画 ・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	30	木	分数の計算	約分・通分の方法を復習し、分数が混じった計算ができる。	
2	5	7	木	正負の数の計算	負の数の概念的な意味を学び、複数の四則演算を正しい順番で計算ができる。	
3	5	10	日	数の計算	中学までの算数・数学の内容を復習し、負の数が混じった四則演算を正しい順番で計算できる。	第1回
4	6	7	日	文字と式	文字を使った積と商の表し方を学び、分配法則を用いて多項式の計算ができる。	第2回
5	7	8	水	文字と式	乗法公式と分配法則を適切に用いて展開し、因数分解が展開の逆であることを理解してたすきがけ等を利用する。	第3回
6	10	11	日	実数・方程式と不等式	平方根の意味を知り、根号を含む計算ができる。移項の際に符号が変化することの意味を理解する。文章題から方程式と不等式を作る。	第4回・第5回
7	12	13	日	方程式と不等式	平方根と因数分解の考えを用いて 2 次方程式を解く。2 次方程式の解の公式を利用して方程式を解く。	第6回
8	1	20	水	実数・方程式と不等式	実数・方程式と不等式を学び、日常生活と数学のかかわりを知る。	第4回～第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2	6	17	水
締切日③	3	7	15	水
締切日④	4	10	29	木
締切日⑤	5	11	25	水
締切日⑥	6	12	23	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

第4回は10月1日から受け付けます。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬	第1回から第3回までのレポートの問題と同等レベルの問題を30問程度出題する。
後期	11月下旬頃～2月上旬	第4回から第6回までのレポートの問題と同等レベルの問題を30問程度出題する。

○ レポートについて

- ・教科書、学習書を参考にしてレポートの問題をすべて解答しましょう。
- ・レポートを提出すると添削され、返送されます。合格(評価がA・B・C・D)していたら、次のレポートを出すことができます。不合格(評価がE)の場合は、やり直して再提出する必要があります。
- ・他人のレポートを写す(写させる)、他人にやらせる(やってあげる)ことは重大な不正行為となるため、絶対にやめてください。
- ・各レポートの「ねらい・質問・感想」欄も評価の対象となります。空欄や抽象的な感想などは評価されません。「がんばった。」「難しかった。」等は不可とします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	数学用語や公式・定理について、適切に理解できている。
思考・判断・表現	最適な解法を用いて途中計算を丁寧に書き、問題について多角的視野を持って考察している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く考え、日常生活と数学との関わりを見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	○	取り組みの様子
レポート	◎	◎	◎	記述内容・取り組みの丁寧さ・感想欄の内容
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「数学Ⅰ（２）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
改訂版 新数学Ⅰ(東京書籍)		新数学Ⅰ 学習書		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
6時間(水2)	2時間	2回	前期3回 後期3回	

○ 「 数学Ⅰ（２）」の学習目標

「2次関数」、「集合と論証」、「図形と軽量」及び「データの分析」の領域において、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成します。

○ 学習内容の概要

「2次関数」	2次関数のグラフの性質について理解し、数量の関係や変化を表現します。
「集合と論証」	ものの集まりや、論理的な考え方について学びます。
「三角比」	三角比の意味や性質について理解し、図形の辺の長さや面積、角度を求めます。
「データの分析」	データの分析・活用の方法について学びます。

○ 数学科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

まず、教科書をよく読んでください。すぐにレポートに取り掛かるのではなく、教科書の例題や学習書を参考にして問を解いてみましょう。ある程度解き方が分かったと感じられたら、レポートに取り組んでください。レポートの問題を解く際は、途中式を残しておきましょう。間違えた時に、自分がどこでミスをしやすいのかを知る手掛かりになりますし、後々の復習にも役立ちます。スクーリングでは、疑問点を積極的に解決してください。レポートの質問欄も有効に活用しましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	26	日	2次関数とそのグラフ・2次関数の値の変化	2次関数とそのグラフの特徴を理解し、グラフをかく。2次関数のグラフと関連させて2次不等式について学ぶ。	第1回・第2回
2	7	8	水	集合と論証	ベン図等を用いて集合の用語を理解する。命題と集合の関連性を学び、真偽の判別ができるようにする。	第3回
3	7	26	日	2次関数とそのグラフ・2次関数の値の変化・集合と論証	表を利用して2次関数のグラフをかき、軸と頂点を求める。因数分解を利用して2次不等式とグラフの関連性を学ぶ。集合の考えを用いて命題の判別を行う。	第1回～第3回
4	10	11	日	鋭角の三角比・三角比の応用	三角比の定義を知り、 30° 、 45° 、 60° の三角比を、図を用いて求める。鈍角まで拡張した場合の三角比の定義を学ぶ。	第4回・第5回
5	12	20	日	データの分析	代表値の求め方を知り、データ全体の特徴を調べる。四分位数や分散、標準偏差からデータの散らばり具合を判別する。	第6回
6	1	20	水	鋭角の三角比・三角比の応用・データの分析	三角比の相互関係を利用して計算をする。与えられた辺と角度の条件から、面積や辺の長さを求める。代表値と四分位数を求める。	第4回～第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2	6	17	水
締切日③	3	7	15	水
締切日④	4	10	29	木
締切日⑤	5	11	25	水
締切日⑥	6	12	23	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。
第4回は10月1日から受け付けます。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬	第1回から第3回までのレポートの問題と同等レベルの問題を30問程度出題する。
後期	11月下旬頃～2月上旬	第4回から第6回までのレポートの問題と同等レベルの問題を30問程度出題する。

○ レポートについて

- ・教科書、学習書を参考にしてレポートの問題をすべて解答しましょう。
- ・レポートを提出すると添削され、返送されます。合格(評価がA・B・C・D)していたら、次のレポートを出すことができます。不合格(評価がE)の場合は、やり直して再提出する必要があります。
- ・他人のレポートを写す(写させる)、他人にやらせる(やってあげる)ことは重大な不正行為となるため、絶対にやめてください。
- ・各レポートの「ねらい・質問・感想」欄も評価の対象となります。空欄や抽象的な感想などは評価されません。「がんばった。」「難しかった。」等は不可とします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	数学用語や公式・定理について、適切に理解できている。
思考・判断・表現	最適な解法を用いて途中計算を丁寧に書き、問題について多角的視野を持って考察している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く考え、日常生活と数学との関わりを見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	○	取り組みの様子
レポート	◎	◎	◎	記述内容・取り組みの丁寧さ・感想欄の内容
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和 8 年度 「数学Ⅱ（前）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新数学Ⅱ(東京書籍)		新数学Ⅱ 学習書		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5時間(水1)	2時間	前期1回	前期6回	

○ 「数学Ⅱ」の学習目標

目標は「方程式・式と証明」、「図形と方程式」の学習を通して数学的に考える力を培うことです。数学の良さを知り、それを活用する力を伸ばします。

○ 学習内容の概要

「方程式・式と証明」 数学Ⅰで学んだ乗法公式・2次方程式等を、さらに広げて考えます。

「図形と方程式」 座標平面上にある複数の点の関係や、直線と円の方程式について考えます。

○ 数学科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

まず、教科書をよく読んでください。すぐにレポートに取り掛かるのではなく、教科書の例題や学習書を参考にして問を解いてみましょう。ある程度解き方が分かったと感じられたら、レポートに取り組んでください。レポートの問題を解く際は、途中式を残しておきましょう。間違えた時に、自分がどこでミスをしやすいのかを知る手掛かりになりますし、後々の復習にも役立ちます。スクーリングでは、疑問点を積極的に解決してください。レポートの質問欄も有効に活用しましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	10	日	式の計算	3次の乗法公式と因数分解について学び、パスカルの三角形と組合せの考えの関連性を理解する。分数式の計算ができるようにする。	第1回
2	5	24	日	2次方程式・高次方程式・式と証明	複素数の定義を学び、2次方程式の解の拡張を図る。因数定理を利用して高次方程式を解く。	第2回・第3回
3	6	21	日	座標と直線の方程式	平面上にある2点の内分点と外分点を、図を利用して整理する。直線の特徴を学び、新しい方法で直線の方程式を求める。	第4回・第5回
4	8	23	日	円の方程式・軌跡と領域	円の定義を改めて考え、円の方程式の形の意味を理解する。直線や円をグラフ上に図示し、不等式が表す領域について考える。	第6回
5	8	26	水	円の方程式・軌跡と領域	円の定義を改めて考え、円の方程式の形の意味を理解する。直線や円をグラフ上に図示し、不等式が表す領域について考える。	第6回

・レポート提出締切

レポート回数	月	日	曜日
1	5	20	水
★2	6	3	水
3	6	17	水
★4	7	1	水
5	7	15	水
6	8	26	水

★目安

★目安

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬	第1回から第6回までのレポートの問題と同等レベルの問題を 33問程度出題する。

○ レポートについて

- ・教科書、学習書を参考にしてレポートの問題をすべて解答しましょう。
- ・レポートを提出すると添削され、返送されます。合格(評価がA・B・C・D)していたら、次のレポートを出すことができます。不合格(評価がE)の場合は、やり直して再提出する必要があります。
- ・他人のレポートを写す(写させる)、他人にやらせる(やってあげる)ことは重大な不正行為となるため、絶対にやめてください。
- ・各レポートの「ねらい・質問・感想」欄も評価の対象となります。空欄や抽象的な感想などは評価されません。「がんばった。」「難しかった。」等は不可とします。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	数学用語や公式・定理について、適切に理解できている。
思考・判断・表現	最適な解法を用いて途中計算を丁寧に書き、問題について多角的視野を持って考察している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く考え、日常生活と数学との関わりを見いだそうとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	○	取り組みの様子
レポート	◎	◎	◎	記述内容・取り組みの丁寧さ・感想欄の内容
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b)評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「数学Ⅱ（後）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新数学Ⅱ(東京書籍)		新数学Ⅱ 学習書		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5時間(水1)	2時間	後期1回	後期6回	

○「数学Ⅱ」の学習目標

目標は「三角関数」、「指数関数と対数関数」、「微分と積分」の学習を通して数学的に考える力を培うことです。数学の良さを知り、それを活用する力を伸ばします。

○ 学習内容の概要

「三角関数」	数学Ⅰで学んだ三角比を、さらに広げて考えていきます。
「指数関数と対数関数」	数学Ⅰで学んだ指数法則を広げて考え、対数関数との関係性を学びます。
「微分と積分」	微分を用いて関数の増減を理解し、積分と面積について考えていきます。

○ 数学科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

まず、教科書をよく読んでください。すぐにレポートに取り掛かるのではなく、教科書の例題や学習書を参考にして問を解いてみましょう。ある程度解き方が分かったと感じられたら、レポートに取り組んでください。レポートの問題を解く際は、途中式を残しておきましょう。間違えた時に、自分がどこでミスをしやすいのかを知る手掛かりになりますし、後々の復習にも役立ちます。スクーリングでは、疑問点を積極的に解決してください。レポートの質問欄も有効に活用しましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	11	日	三角関数・ 加法定理	一般角まで拡張された三角関数を、動径を図示することで導く。三角関数のグラフの特徴を捉える。弧度法の定義を学び、角を別の方法で表す。	第1回・第2回
2	10	14	水	三角関数・ 加法定理	一般角まで拡張された三角関数を、動径を図示することで導く。三角関数のグラフの特徴を捉える。弧度法の定義を学び、角を別の方法で表す。	第1回・第2回
3	10	25	日	加法定理・ 指数関数	弧度法の定義を学び、角を別の方法で表す。指数法則を有理数全体に拡張し、指数が負の数と分数の場合について考察する。	第2回・第3回
4	12	13	日	対数関数・微分係 数と導関数・導関 数の応用	指数と対数の関連性を学び、対数の性質を利用して値を求める。極限の意味を学び、微分係数と接線の傾きが等しいことを図で理解する。	第4回・第5回
5	12	20	日	微分係数と導関 数・導関数の応用 ・積分	極限の意味を学び、微分係数と接線の傾きが等しいことを図で理解する。積分が微分の逆であることを利用して、不定積分を求める。定積分を用いて、図形の面積を求める。	第5回・第6回

・レポート提出締切

レポート回数	月	日	曜日
1	10	29	木
★2	11	11	水
3	11	25	水
★4	12	9	水
5	12	23	水
6	1	20	水

★目安

★目安

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬頃～2月上旬	第1回から第6回までのレポートの問題と同等レベルの問題を 33問程度出題する。

○ レポートについて

- ・教科書、学習書を参考にしてレポートの問題をすべて解答しましょう。
- ・レポートを提出すると添削され、返送されます。合格(評価が A・B・C・D)していたら、次のレポートを出すことができます。不合格(評価が E)の場合は、やり直して再提出する必要があります。
- ・他人のレポートを写す(写させる)、他人にやらせる(やってあげる)ことは重大な不正行為となるため、絶対にやめてください。
- ・各レポートの「ねらい・質問・感想」欄も評価の対象となります。空欄や抽象的な感想などは評価されません。「がんばった。」「難しかった。」等は不可とします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	数学用語や公式・定理について、適切に理解できている。
思考・判断・表現	最適な解法を用いて途中計算を丁寧に書き、問題について多角的視野を持って考察している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く考え、日常生活と数学との関わりを見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	○	取り組みの様子
レポート	◎	◎	◎	記述内容・取り組みの丁寧さ・感想欄の内容
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和 8 年度 「数学 A」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新数学 A(東京書籍)		新数学 A 学習書		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5時間(水1)	2時間	後期1回	後期6回	

○ 「数学Ⅱ」の学習目標

目標は「場合の数と確率」、「図形の性質」、「数学と人間の活動」の学習を通して数学的に考える力を培うことです。数学の良さを知り、それを活用する力を伸ばします。

○ 学習内容の概要

「場合の数と確率」 並べ方、組合せ、確率について考えていきます。
「図形の性質」 図形の基礎的な知識を学び、それぞれの性質について考えていきます。
「数学と人間の活動」 数字が使われる場面について調べ、整数の性質や表し方について考えます。

○ 数学科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

まず、教科書をよく読んでください。すぐにレポートに取り掛かるのではなく、教科書の例題や学習書を参考にして問を解いてみましょう。ある程度解き方が分かったと感じられたら、レポートに取り組んでください。レポートの問題を解く際は、途中式を残しておきましょう。間違えた時に、自分がどこでミスをしやすいのかを知る手掛かりになりますし、後々の復習にも役立ちます。スクーリングでは、疑問点を積極的に解決してください。レポートの質問欄も有効に活用しましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	18	日	場合の数・確率	積の法則から順列と組合せを学ぶ。様々な問題について条件を整理し、起こりうる場合の数と特定の事象が起こる場合の数をそれぞれ式に表す。	第1回・第2回・第3回
2	10	21	水	場合の数・確率	積の法則から順列と組合せを学ぶ。様々な問題について条件を整理し、起こりうる場合の数と特定の事象が起こる場合の数をそれぞれ式に表す。	第1回・第2回・第3回
3	11	29	日	平面図形の基礎・ 三角形の性質・ 円の性質	相似な三角形を利用して三角形と円の性質について学ぶ。	第4回
4	12	13	日	数や位置を表す・ 数のつくりを調べる	数の表し方について学び、様々な数を2進法で表す。エラトステネスのふるいを利用して素数を求める。	第5回
5	12	20	日	数のつくりを調べる	ユークリッドの互除法を利用して、2つの数の最大公約数を求める。	第6回

・レポート提出締切

レポート回数	月	日	曜日
1	10	29	木
★2	11	11	水
3	11	25	水
★4	12	9	水
5	12	23	水
6	1	20	水

★目安

★目安

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬頃～2月上旬	第1回から第6回までのレポートの問題と同等レベルの問題を 33問程度出題する。

○ レポートについて

- ・教科書、学習書を参考にしてレポートの問題をすべて解答しましょう。
- ・レポートを提出すると添削され、返送されます。合格(評価がA・B・C・D)していたら、次のレポートを出すことができます。不合格(評価がE)の場合は、やり直して再提出する必要があります。
- ・他人のレポートを写す(写させる)、他人にやらせる(やってあげる)ことは重大な不正行為となるため、絶対にやめてください。
- ・各レポートの「ねらい・質問・感想」欄も評価の対象となります。空欄や抽象的な感想などは評価されません。「がんばった。」「難しかった。」等は不可とします。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	数学用語や公式・定理について、適切に理解できている。
思考・判断・表現	最適な解法を用いて途中計算を丁寧に書き、問題について多角的視野を持って考察している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く考え、日常生活と数学との関わりを見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	○	取り組みの様子
レポート	◎	◎	◎	記述内容・取り組みの丁寧さ・感想欄の内容
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。